

## 事業事前評価表

### 国際協力機構南アジア部南アジア第二課

#### 1. 基本情報

国名：パキスタン・イスラム共和国

案件名：パキスタン医科学研究所における母子保健センター及び小児病院の集中治療拡充計画

The Project for the Extension of Intensive Care at Maternal and Child Health Care Centre and Children's Hospital in Pakistan Institute of Medical Sciences

G/A 締結日：2019年8月8日

#### 2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け  
パキスタン・イスラム共和国（以下、「パキスタン」という。）は、南アジアにおいて母子保健指標（2016年妊産婦死亡率：出生10万対178、新生児死亡率：出生千対46、5歳未満児死亡率：出生千対79）が最も低い水準にある国の一つであり、パキスタン政府は国家政策「Pakistan Vision 2025」において、社会セクター開発を柱の一つに掲げ、国民の保健サービスへのアクセス改善を重点課題として掲げている。特に、国民の約3割を占める貧困層に対し負担可能な費用で医療サービスを提供するための公的医療機関の強化が喫緊の課題となっている。また、高まる保健医療サービスニーズに対して、医療施設の老朽化や人材の不足といった課題を抱えており、妊産婦や新生児へのケアも含め保健医療サービスの強化が急務となっている。

パキスタン医科学研究所（Pakistan Institute of Medical Sciences。以下、「PIMS」という。）は、首都イスラマバードに位置し、総合病院、小児病院、母子保健センター、看護短大、医療技術短大等から構成される医療複合施設である。同研究所は国内有数の公的第三次医療機関であり、首都周辺のみならず、隣接するパンジャブ州、ハイバル・パフトゥンハー州といった他州からの患者の受入も行っている。1988年に約5千人であった入院患者数は、2016年には6.8万人に、外来患者数も40万人（1988年）から120万人（2016年）と大幅に増加しており、PIMSの果たすべき役割の重要性は年々増している。我が国は、1980年代より同研究所内の小児病院、母子保健センター、教育施設への支援を行っており、これらの支援で整備された施設や医療機材は現在まで使用されているものの、経年劣化等に伴い一部故障や不具合が発生している。また、患者数の大幅な増加に伴い、施設の上限を超える年間約5,800件の帝王切開や約5,000件にのぼる小児に対する手術を実施しているほか、

母子保健センターでは死亡にいたった患者のうち 50%程度が集中治療室でのケアを受けられていないなど、既存の PIMS のキャパシティの不足に伴い、治療や感染管理が適切に行えない状況にある。

パキスタン医科学研究所における母子保健センター及び小児病院の集中治療拡充計画（以下、「本事業」という。）は、既存の施設では十分な対応が困難となっている緊急性の高いハイリスク妊産婦および新生児への診断・治療機能を集約し、効率的な医療サービスを提供することを通じ、PIMS 全体の母子に対する医療サービスの質の向上を目的として実施されるものである。本事業を通じ、国内有数の第三次医療施設における医療サービス提供能力の強化が図られ、特に、公的医療に頼らざるを得ない貧困層の母親と子どもへの質の高い医療サービスへのアクセス改善に貢献することから、当国保健セクターの開発戦略においても優先度の高い事業と位置付けられる。

- (2) 保健セクターに対する我が国及び JICA の協力方針等と本事業の位置付け
- 対パキスタン・イスラム共和国国別開発協力方針（2018 年 2 月）における重点目標として「人間の安全保障の確保と社会基盤の改善」が定められ、母子保健を中心とした保健システムの強化が主要な柱の一つとなっている。また、対パキスタン・イスラム共和国 JICA 国別分析ペーパー（2014 年 3 月）において、保健プログラムが重点課題に位置付けられ、母子保健を核とした基礎的な保健・医療サービス提供能力の強化が重要であると分析されており、本事業はこれら方針、分析に合致する。

JICA はこれまでに、PIMS に対し無償資金協力「イスラマバード小児病院建設計画」（1982 年）、「看護婦医療技術者養成学校建設」（1984 年）、「母子保健センター建設計画」（1996 年）、「イスラマバード小児病院整備計画」（2003 年）、「イスラマバード小児病院改善計画」（2005 年）を実施、また、「バロチスタン州基礎医療機材整備計画」（2003 年）、「カラチ小児病院改善計画」（2012 年）にて、パキスタン国内の医療施設や医療機材の整備を支援している。

- (3) 他の援助機関の対応

当国の保健セクターでは、世界保健機関、国際連合児童基金、アメリカ合衆国開発庁、英国開発庁といった援助機関が、母子保健、一次医療、ポリオ対策、定期予防接種分野を中心に、政策・制度、技術面での支援を行っているが、PIMS では、現在他ドナーからの支援は行われておらず、本事業との重複はない。

### 3. 事業概要

- (1) 事業目的

本事業は、国内有数の第三次医療施設である PIMS において、小児病院、母子保健センターのハイリスク周産期を対象とした診断・治療機能を拡充す

るとともに、新施設への集約を図ることにより、母子保健にかかる診断・治療体制を強化し、もって当国の保健・医療サービスの質の向上に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト／対象地域名

イスラマバード特別区

(3) 事業内容

1) 施設、機材等の内容：

【施設】産婦人科救急外来、新生児救急外来、母体胎児集中治療室、新生児集中治療室、産婦人科重症ケア室、乳児重症ケア室、手術室、陣痛・分娩室、産婦人科病棟、小児科病棟、中央滅菌材料部

【機材】新施設に必要な医療機材（新生児保育器等 84 品目）

2) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：

コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工・調達監理。

ソフトコンポーネント：医療機材の適切な運営・維持管理に係る技術指導。

(4) 総事業費

総事業費 4,044 百万円

(概算協力額 日本側：3,620 百万円、パキスタン・イスラム共和国側：424 百万円)

(5) 事業実施期間

2019 年 8 月～2023 年 3 月を予定（計 44 か月）。施設の供用開始時（2022 年 3 月）を持って事業完成とする。

(6) 事業実施体制

1) 事業実施機関：パキスタン医科学研究所（PIMS）

2) 運営・維持管理機関：パキスタン医科学研究所（PIMS）

(7) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動：

無償資金協力「イスラマバード小児病院建設計画」（1982 年）、「母子保健センター建設計画」（1996 年）、「イスラマバード小児病院改整備計画」（2003 年）にて整備された施設が、本事業の実施によって効率的に医療サービスを提供できるようになり、PIMS 全体として母子に対する医療サービスの質が向上することで相乗効果が期待できる。

2) 他援助機関等の援助活動：

本事業の対象となるサイトにおける重複はないことを確認している。

(8) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 横断的事項：特になし

3) ジェンダー分類： ■GI(S)（ジェンダー案件）

<活動内容/分類理由>

本事業は、施設の拡充を通じて、母子への医療サービスの質の向上を目的としていることから、「女性を主な裨益対象とする案件」に分類する。

(9) その他特記事項：特になし

#### 4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2017年実績値)	目標値(2024年) 【事業完成3年後】
母体胎児集中治療室（MFICU）の患者収容件数（件／年）	0 (参考値 142*1)	300
新生児集中治療室の患者収容件数（件／年）	947	1,100
産婦人科と小児科の手術件数（既存施設と新施設の合計）（件／年）	14,410	16,500

\*1：2017年時点で既存棟に母体胎児集中治療室（MFICU）はないため基準値は0だが、既存の母子保健センターの術後回復室内の2床を、重症患者のための集中治療病床として使用しており、その2017年の利用者数を参考値とする。

2) インパクト

死亡にいたった患者のうち集中治療室でケアを受けられなかった患者が減少する。

(2) 定性的効果

1) PIMSにおけるハイリスク妊産婦・褥婦・新生児への医療サービス提供体制が強化される。

2) 既存の母子保健センターと小児病院において療養環境が改善し、患者サービスの質が向上する。

3) 医療機材保守管理業務、中央滅菌材料部の業務が効率化する。

#### 5. 前提条件・外部条件

(1) 前提条件：特になし。

(2) 外部条件：特になし。

## 6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

当国の無償資金協力「イスラマバード小児病院改善計画」（評価年度 2011 年）の事後評価結果では、患者数の増加に伴う外科手術ニーズ増加への対応、イスラマバード小児病院人材育成戦略（特に神経外科、外傷・形成外科分野）の策定、医療機材の維持管理費用の継続的な確保の重要性が指摘されている。本事業では、パキスタン政府による事業計画（Planning Commission-1）作成にあたり、各病棟に配置すべき人材数とその人件費見積額の情報を提供し、予算確保について確認済みである。さらに、機材の選定に際しては、修理対応や交換部品、消耗品の現地調達が可能であることを選定条件とした。

## 7. 評価結果

本事業は、国内有数の第三次医療施設であるパキスタン医科学研究所において、医療機材の整備及び小児病院、母子保健センターの拡充を通じ、ハイリスク妊産婦および新生児のための保健医療サービスの質の向上を図り、もってパキスタンにおける人間の安全保障の確保と社会基盤の改善に寄与するものであり、当国の開発政策及び我が国及び JICA の協力方針・分析と合致する。また、SDGs ゴール 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に貢献することから、無償資金協力にて本事業の実施を支援する必要性は高い。

## 8. 今後の評価計画

- (1) 今後の評価に用いる指標  
4. (1) ~ (2) のとおり。
- (2) 今後の評価スケジュール  
事後評価 事業完成 3 年後

以 上